

CONTACT INFORMATION

問合せ先

機械職・電気職に関する問合せ先

横浜市都市整備局
市街地整備部
公共事業調整課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10
TEL.045-671-4084 FAX.045-651-7599



[機械職・電気職個別相談会]

採用に関する問合せ先

横浜市人事委員会事務局
調査任用部任用課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10
TEL.045-671-3347 FAX.045-641-2757

横浜市 機械職・電気職 紹介

CITY OF YOKOHAMA
MECHANICAL ENGINEER・ELECTRICAL ENGINEER
PAMPHLET

継



変わる時代に
進む力を。

承



[横浜市職員採用案内ホームページ]

横浜市 採用 検索



[横浜市人事委員会事務局 公式X]

X @yokohama_ninyo



[横浜市職員採用広報 公式Instagram]

@yokohama_recruit





© Yokohama City Visitors Bureau

横浜市の 機械職・電気職を 目指す皆さんへ

横浜市は約377万人の市民が暮らす大都市であり、上下水道、道路、交通、消防、防災、公園、学校、市庁舎など、多様な施設や設備を抱えています。これらを効率的に運用し、将来にわたり持続可能な都市を実現するためには、確かな専門知識と技術力、そして都市づくりへの熱意をもった人材が不可欠です。

機械職は、公共建築物の給排水などの衛生設備や空調設備、上下水道等のインフラ施設やごみ焼却施設などの巨大なプラント設備など、都市機能の根幹にかかわる設備を扱います。また、新たなテクノロジーの導入も進んでおり、時代とともに高度化する分野です。

電気職は、街を照らす照明設備から公共施設の電気設備、再生可能エネルギーの導入、AIを活用した業務の効率化など、幅広い領域を担当します。さらに脱炭素社会を実現するための省エネルギー化など、市民生活のあらゆる場面でその専門性が求められます。

機械・電気の技術職として「社会のために貢献したい」「人の役に立つ仕事をしたい」「横浜のまちづくりに関わってみたい」そんな思いが少しでもある皆さんに、ぜひ横浜市の技術職にチャレンジしてほしいと思っています。

これからの横浜の未来をつくるのは皆さんです。
ぜひ一緒に働ける日を心から楽しみにしています。

CONTENTS

- 03 横浜市の機械職・電気職の主な配属先
- 04 職員インタビュー
- 06 横浜市機械職・電気職の仕事
- 10 よくある質問

当パンフレットに掲載されている内容は、令和8年2月末時点のものです。

ASSIGNMENT 横浜市の機械職・電気職の主な配属先



04 維持・管理
→ P.10

01 政策・計画
→ P.6

03 施工・監督
→ P.8

02 設計・営繕
→ P.8

横浜市の機械職・電気職は、市民の安全・安心を支える「縁の下の力持ち」として、多岐にわたるフィールドで活躍できることが大きな魅力です。主な配属先は、市庁舎をはじめ、安全で良質な水を安定して供給する上水道施設、生活排水等をきれいな水にする下水道施設、家庭から排出されるごみを焼却するごみ焼却工場など、さまざまなインフラ施設への配属もあります。

その他、国際物流や観光拠点として利用される港湾施設(大さん橋・本牧ふ頭 etc)、通勤・通学や日常の移動を支える市営地下鉄「ブルーライン」「グリーンライン」の関連施設があります。機械・電気の専門性を生かし、市民の暮らしを支えています。横浜市はこのような幅広い分野を経験できるため、技術者として長期的に成長し続けられる環境が整っています。

大規模な太陽光発電で
脱炭素社会の実現に貢献



金沢水再生センター再生可能エネルギー導入事業

最善策を
前向きに考え続ける
職員になりたい!

電気工事を通して
市民の安心
安全な生活
を未来へ継承します

電気職

WHAT WE DO

業務内容

生活排水等をきれいな水にする『水再生センター』や、処理の過程で発生する汚泥を資源化する『汚泥資源化センター』、雨水を川や海に排水して街を浸水から守る『ポンプ場』などの下水道施設を更新・新設するための電気工事の設計、発注、施工監理を行っています。

下水道施設には、受変電設備、計測機器、遠方監視装置など、多岐にわたる電気設備があり、機械職や土木職等の職員と連携しながら、計画的に下水道施設を整備しています。

PROFILE

下水道河川局 下水道施設部設備課
2016年度入庁

POSITIVE EPISODE

成長できた話

下水道施設の屋上に自家消費型の大規模な太陽光発電設備を導入するPPA事業について、計画段階から契約内容の調整まで、一連の業務を担当しました。導入後は、先行事例として全国の自治体から相談を受け、他都市が抱える導入に関する課題の整理や解決にも寄与することができました。横浜市のために取り組んだ業務が、結果として他自治体にも波及した経験を通じて、業務の影響範囲を広く捉える視点と、より大きな価値を生み出す意識が培われました。



CADでの図面作成



DAILY PLANNER
一日のスケジュール

- 8:30 【出勤】**
朝会で連絡事項の共有、メールチェックを行います。
- 9:00 【事業者との打合せ】**
納入する設備の仕様や工事の進め方等について打合せをします。
- 10:00 【同僚職員の資料確認】**
同僚が作成した工事書類について、設備の仕様や数量が適切か確認し、課題があれば知恵を出し合って解決を図ります。
- 13:00 【関係部署との打合せ】**
担当者同士で工事の進捗や今後の発注予定、懸念事項等について話し合い、業務が円滑に進むことを目指します。
- 14:00 【工事発注資料の作成】**
工事発注のために施設調査や設備容量の計算などの設計業務を行います。その後、仕様・配置等を示す設計書や図面などの工事発注手続きに必要な資料を作成しています。
- 17:15 【退勤】**
残業する日もありますが、同僚と予定を合わせて定時で上がり、食事に行くなど、メリハリをつけて働いています。



更新した電気盤

機械職

WHAT WE DO

業務内容

主に公共建築物の長寿命化対策事業の実施及び相談業務を行っており、営繕担当のない区局が所管する庁舎や市民利用施設など、様々な施設の保全管理に携わっています。長寿命化対策事業では、長期的に施設を使用していくため、老朽化した空調設備や衛生設備の更新工事を委託して進めています。その中で、委託事業者、施設及び所管課と調整を行い、工事を円滑に進められるように取り組んでいます。相談業務では、各施設で発生した設備の不具合について相談を受け、改善案の提案や工事の必要性について判断し、対応方法の助言を行っています。

PROFILE

建築局 公共建築部保全推進課
2021年度入庁

屋上や天井裏を確認することもあります!



現場調査の様子



研究成果の発表風景

安心して相談してもらえ、
人から頼られる
職員になりたい!



機械室の様子

POSITIVE EPISODE

成長できた話

相談業務を進める中で、職種異なる職員や施設の方々に説明する機会が多くありますが、自分の説明を十分に理解してもらえていないと感じることがありました。設備に対する知識は人によって差があるため、難しい言葉を分かりやすく言い換え、絵や図面を用いて視覚的に伝えることを意識しました。その結果、「分かりやすい」と言っていたことが増え、最近では研修資料の作成や発表を任せていただくこともあるため、これからも聞く人が理解しやすい説明を心がけていきます。

公共建築物
の保全
を技術面から
支えています

DAILY PLANNER
一日のスケジュール

- 8:30 【出勤】**
基本的には、この時間に出勤しています。病院など夕方早い時間に予定があるときはフレックスを活用することもあります。
- 9:00 【現場調査】**
区役所や地区センター等で発生した設備の不具合の相談に対応するため、施設へ伺い、空調設備や衛生設備の状態を確認します。
- 12:45 【ランチ】**
ランチシフトを利用して遅めにお昼を取っています。普段はお弁当派ですが、先輩や同期、後輩と市庁舎内のお店で食べることもあります。市庁舎周辺にもおいしいお店がたくさん!
- 13:45 【資料作成】**
午前中に対応した相談について、今後の方針や対応方法をまとめた資料を作成します。メーカーや点検業者に連絡を取り、部品の在庫状況や対応方法の提案・確認を行うこともあります。
- 16:00 【各プロジェクトの打合せ】**
メイン業務に加え、長寿命化対策事業に関する少人数のプロジェクトが複数あります。建築職や電気職を含めたメンバーで定期的に打合せを行い、進捗状況や業務内容を確認します。
- 17:15 【退勤】**
市庁舎周辺にはライブ会場が多く、定時退勤後でも開演に間に合うのも魅力です! 普段は帰宅してのんびり夕飯を作っています。

他の職種はこちら
横浜市職員採用
コンセプトページ





機械職・電気職の4つの仕事

Policy and Planning



政策・計画 P.6

市民の暮らしを守る政策・計画を、技術の力で現実に変える場所がここにある！

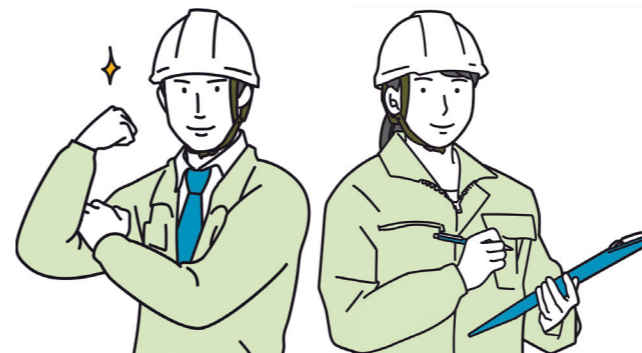
Design and Maintenance



設計・営繕 P.8

街の“当たり前”をつくる仕事。設計と営繕で横浜の未来をアップデートしよう！

Construction and Supervision



施工・監督 P.8

次代の横浜をつくる主役は、施工と監督を担う技術者。現場で磨く確かな技術力！

Maintenance and Management



維持・管理 P.10

見えないところで横浜を動かす。維持・管理で街の安全と快適をつくる技術職！

PLANNING

政策・計画



身につくスキル

企画・立案、計画・進行、資料作成、プレゼン力、調整・交渉力

“止められない都市機能”を未来に繋ぐエンジニア

横浜市の機械職・電気職が関わる施設として、上水・下水・ごみの焼却・学校などの公共施設があります。これらの政策・計画に携わる職員は、約377万人の市民生活を常に支えています。

まず、人口減少・脱炭素・災害対応といった社会課題の解決のため、方向性や目標を定めます。これが政策づくりです。次に、劣化状況やリスク評価、運転データを分析します。その上で、更新の優先度や時期を技術的に判断し、計画を立てます。

データと現場経験を統合し、計画から事業化、更新、運用までを一貫してマネジメントすることが、私たちの役割です。

決して止めることが許されない都市機能を、政策・計画を通じて未来に繋げ続けます。

事業紹介①

技術で未来の都市をデザインする： GREEN×EXPO 2027

GREEN×EXPO 2027 は、最新の環境技術や都市インフラの実証が集約される、未来型フィールドテストともいえる国際博覧会です。

会場では、再生可能エネルギーの利用拡大、省エネルギー化、グリーンインフラの実践が重点的に進められています。これは、国が掲げる「GX（グリーン・トランスフォーメーション）やグリーン社会実現への貢献」を明確にした公式方針に基づいています。

博覧会後も会場整備で得られる知見は、再エネ導入、公共施設の省エネ化、都市のインフラ設計などに活かされる予定です。



「GREEN×EXPO 2027」会場イメージ

事業紹介②

カーボンニュートラルへ向かう都市づくり： 脱炭素先行地域（みなとみらい21）

みなとみらい21地区は、環境省から「脱炭素先行地域」に選定されています。この地域では、熱や電力の使い方を最適化することで、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた、先進的なまちづくりが進んでいます。横浜市では、設備機器の更新時期や規模を、民間企業と協力しながら中長期的な視点で計画しています。

その中で、機械職・電気職の職員は、横浜市全体のエネルギーの仕組みを考え、事業の方向性を示す“発注者”としての役割を担っています。都市のエネルギー転換をチャンスととらえ、新しい技術にも対応できる計画を積み重ねることで、横浜市の脱炭素化を着実に前進させています。



EV充電器の公道設置

事業紹介③

駅周辺の安全と機能を支える： エキサイトよこはま22

「エキサイトよこはま22」は、横浜駅周辺の再整備を通じて、さらなる国際化への対応、環境問題、駅としての魅力向上、災害時の安全性確保などを進める横浜市の都市再生プロジェクトです。環境、交通、防災といった都市機能を一体で捉え、駅周辺全体の将来像を計画しています。この中で、浸水対策は機械職・電気職にとって、重要なテーマの一つです。駅周辺に甚大な被害をもたらした、平成16年10月の台風22号と同等の時間降雨量約74mm（30年に1回の降雨）に対応するため、新たな雨水幹線及びポンプ場の整備を進めています。重要インフラの基幹的機能を支える一それが機械職・電気職に求められる使命です。



下水道施設を監視している様子



身につくスキル

プラント設備の知識、公共建築設備の知識、技術基準・規定等の理解、工事費積算スキル、コストを考慮した設計

“使い続ける都市”を未来まで支えるエンジニア

設計・営繕に関わる機械職・電気職は、設備の更新にとどまりません。公共施設を安全・安心・快適に、長く使い続けるために何が必要か考えます。災害時の機能維持や省エネルギー化、長寿命化の視点を重視し、設計・改修・更新を行っています。

設計では、基準やルールを踏まえつつ、建物の使われ方や現場の条件を確認します。そして、更新計画に基づき、工事、維持管理、更新のしやすさを見通し、考え図面に描きます。また、営繕では、老朽化対策やバリアフリー化、省エネルギー化など、公共施設の改修・更新を計画的に行います。次の世代にも使いやすい状態で引き継ぐことが重要です。

設計段階から使い続ける将来まで見通し、適切な時期に改修する。それが、横浜市の設計・営繕を担当する技術者です。

事業紹介①

標準×現場で高品質の設備設計を実現：公共建築

公共建築物を担当する部署では、市民の方が日常的に利用する施設へ機械・電気の専門家として関わり、利用の安全性と快適さを支えています。対象施設は、市庁舎や区役所、学校、公園、市営住宅など、生活に欠かせない施設ばかりです。

小中学校の新築・増築の設計を行う際には、室内の仕様や備品の種類、配置などを定めた標準図に沿って進めていきます。また、現地調査を行うことで、各々の学校に適した設計を行います。

空調・衛生・電気設備の更新を通じて、未来のための安全・安心・快適さを総合的に高める判断力が磨かれます。



根岸森林公園(トイレ)

事業紹介②

“当たり前”を守る設備設計と更新：上水道事業

上水道施設を担当する部署では、安心・安全な水を安定的に供給することで約377万人の市民生活と都市活動を支えています。

浄水場や配水池、ポンプ施設は、受変電設備やポンプ設備、監視制御設備など対象が幅広く、機械・電気の多様な知識が求められます。

これらの設備を対象に、水を安全かつ安定的に届けるための施設の設計を行います。設計の中では、コストと性能のバランス、更新のタイミングを考え、将来を見据えながら、改修・更新の方向性を整理します。

「蛇口をひねれば水が出る」という当たり前を、将来にわたって守り続けています。市民生活に不可欠なインフラを支えたい！そんな人にぴったりなフィールドです。



ポンプの現場確認

事業紹介③

日常の市民の足を支える設計：都市交通(地下鉄)

市営地下鉄「ブルーライン」「グリーンライン」は市民の方の通勤や通学など、日常の移動を支える重要な都市インフラです。

走り続ける交通の要となる設備として、地下鉄車両のほか受変電設備、信号・通信設備、換気・空調設備、給排水衛生設備のほか多くの設備があります。機械職・電気職は、安全性と定時運行を確保するため、これらの設備の改修・更新を行います。

列車運行や駅の利用を止めることはできないため、各設備の更新時期を慎重に判断することが求められます。安全・確実・快適な交通サービスを支え、都市機能の一役を担っています。



市営地下鉄「ブルーライン」



身につくスキル

工程監理、品質監理、安全監理、調整・交渉力、市民対応力

“未来の確かな形”を現場の最前線で守るエンジニア

政策や計画のもと、設計をして終わりではありません。工事が、設計どおりに安全に高品質で完成するよう、技術の視点から監理します。これが施工・監督の仕事です。

工事の図面や説明書をまとめた設計図書のとおり、適切に施工されているか確認をします。機械職・電気職は、「空調設備」「衛生設備」「電気設備」などの設備工事を担当します。電気などの切り替えの計画や一時的な運用方法を細かく準備し、設備の稼働を止めずに更新する必要があります。事業者と日頃からコミュニケーションを取り、工程・品質・安全を監理する重要な役割です。

設備の運用が開始され、市民の方が安心して施設を利用している姿や横浜市の“未来の確かな形”を生み出す、責任ある仕事です。

事業紹介①

学校・公共施設の更新：安全と快適の両立

機械職は、空調設備や上下水道のポンプ施設などの設備の更新を行います。その対象は、小中学校や区役所など市民の方に身近な公共施設のほか、上下水道や市場など身近ではない施設もあります。熱中症対策として、学校や地区センターの体育館に空調設備を設置する工事では、利用者の安全確保が重要です。また、現場の状況にあわせて設置場所を調整し、長く使える仕様の実現を目指します。安全に仕様を満たす工事を行うため、事業者と調整を行い、工事全体を監理します。

工事を監理することは、施設利用を止めずに工事を行う上で重要な役割です。現場の実態を把握し、“関係者との調整力”と“段取り力”により安全・安心な暮らしを絶え間なく支えています。



尾張屋橋住宅(仮称)建替工事

事業紹介②

電気設備更新：見えないリスクを管理する

電気職は、公共施設からインフラ施設にある「照明設備」「受変電設備」「非常用電源設備」「消防設備」などの工事監督を担当します。例えば、照明工事では既存の「蛍光灯」から「LED照明」への更新工事を行い、更新後は照度測定を実施し、仕様書通りの性能が確保されていることを確かめます。さらに、電気工事で特に気をつけなければいけないのが「感電」です。電気は目に見えるものではないため、工事するには必ず事前に電気が切れていることを確認することが大切です。機械職とも連携し、設備が確実に稼働し続けるための責任を担います。工事監督を通じて幅広い知識と経験が身につく、技術者としての成長を実感できるフィールドです。



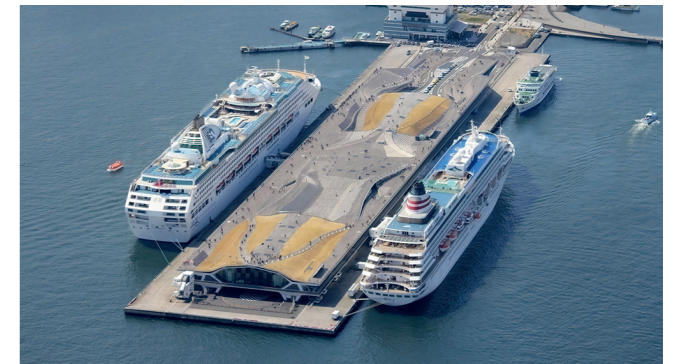
電気設備(配電盤)更新後の確認

事業紹介③

港湾の大規模インフラ：横浜港の現場

機械職・電気職が連携して監理する現場の一つに横浜港があります。国際物流の本拠地と観光の要である大さん橋などの港湾施設の監督や検査を行います。広域かつ大規模という条件のもと、工程・安全・品質の同時最適を要求されるダイナミックな現場です。

機械職が担当する空調衛生設備、電気職が担当する電気設備。これらの切り替えや仮設運用を織り込みながら、工程監理をすることで、港湾施設の運用を維持しています。世界の物流や観光の信頼を裏側から支える、横浜市ならではの魅力があふれています。



横浜港大さん橋国際客船ターミナル全景



身につく
スキル

維持管理の体系知識、PFI・契約知識、DX・データ
分析力、リスクマネジメント力、設備の運転技術

“当たり前の日常”を未来へ受け渡すエンジニア

政策や計画をもとに設計を行い、工事を終えたあとは、その設備を使い続けることが重要です。維持・管理は、日常点検を通じてトラブルを未然に防ぐ仕事です。

公共施設の設備や上水・下水・焼却施設などのインフラ設備は、止まることの許されない設備です。そのため、安全性と効率性を両立した維持・管理が重要です。日々の点検結果や故障履歴、運転データの蓄積をもとに、故障を予測し、予防することで、市民生活を支えています。

維持・管理は、日常にあふれる見えない安心を、確かな技術で支え、都市の信頼を守り続け、未来へ受け渡す仕事です。

事業紹介①

PFI / 包括管理：官民で支えるライフサイクル

横浜市では、民間事業者の技術と運営力を活用して、設計・建設から維持・管理までを行うPFI事業を活用しています。市民サービスの向上やライフサイクルコストの効率化を図り、施設を長期的に安定して使い続けることができます。

横浜市は発注者として、設備の性能や管理基準、民間事業者との役割分担を明確にします。そして、民間事業者の技術力やノウハウを引き出し、未来を見据えた施設マネジメントを主体的に行います。

高度化・複雑化する設備を、長期的な視点で支え、安定した運用をすることで、市民の方の暮らしを未来まで守り続けています。



川井浄水場 (PFI事業)

事業紹介②

細かな気づきが都市を守る：日常点検の価値

「日常点検」とは単に点検をすることではありません。公共施設の設備やインフラ設備を安定して運営するための重要な仕事です。

音・振動・匂いの変化、細かなデータの変動から、不具合を先読みする鋭い観察力と知恵が必要です。これは、机上の学習だけでなく、現場で経験を積むことで身に付きます。横浜市では大規模なインフラ設備で経験を積むことができ、老朽化による故障の予兆を察知する力を磨くことができます。

日常点検での細かな気づきが、設備の更新・改修の判断に直結します。日々の積み重ねが安心・安全な都市を守り続けています。



下水道施設の機械整備

事業紹介③

DX / AI：人が“判断”するためのテクノロジー

技術者不足が課題となる中、限られた人数で、設備の維持・管理を継続していくことが求められています。横浜市では、DXを活用した維持・管理の高度化を推進しています。電気設備の電圧・電流データの取得から帳票作成までを自動化することで、現場の負担を軽減させ、必要なデータを蓄積します。重要なのは、AIなどのツールを導入することではなく、技術者が判断するための仕組みをつくることです。横浜市は、民間企業や大学と連携し、実証を行い、本格稼働へとつなげています。都市運営を進化させ、未来へ技術を受け渡す。その結果、持続可能な都市を実現することができる新しい分野です。



ドローンによる点検作業

Q&A

よくある質問に現役職員が答えます！



Q1 業務に必要な資格はありますか？

業務によっては、電気主任技術者などの資格が必要な場合もあります。でも安心してください！横浜市には、資格取得をバックアップする制度があります。横浜市で、皆さんのスキルと一緒に磨きましょう！！

機械職・電気職の主な資格

電気主任技術者(第一種)	ボイラー技士(特級)
電気主任技術者(第二種)	ボイラー技士(一級)
電気主任技術者(第三種)	ボイラー技士(二級)
エネルギー管理士	技術士
建築物環境衛生管理技術者	技術士補

Q2 英語を活用する機会はありますか？

英語を日常的に使うことは多くありませんが、横浜ならではの国際的な仕事があり、英語を活かせる場面があります。海外からの視察の受け入れや、海外の国際展示会での技術紹介など、世界とつながる機会があります。さらに、発展途上国でのワークショップや技術指導など、国際協力に参加できる場面もあります。



インドネシアでの支援の様子

Q3 点検って、やっぱり危険なんですか...？

徹底した安全体制で守られています。

ヘルメット、安全靴の貸与はもちろん、安全教育などを行っています。安全が何より、最優先です！危険に立ち向かうのではなく、安全を確保した上で点検を行い、技術を役立てます。



Q4 AIって、現場で使われていますか？

使われています！新しいごみ焼却工場の建設工事では、AI(人工知能)技術を搭載した焼却炉の高度自動燃焼システムの導入など、様々なAI技術を取り入れています。また、その他の事業でもAI技術を活用した取組を官民連携で進めており、横浜市は次世代インフラの実現に挑戦しています。



新保土ヶ谷工場イメージ図

Q5 やりがいを感じるのはどんな時ですか？

市民の方から、感謝のお言葉をいただいたときにやりがいを感じます！

入庁して間もない頃、使用していない公共施設を保育園として活用するための、改修工事を担当しました。

初めて自分が担当した工事でもあり、分からないことも多く、とても苦労しました。それでも、工事が終わり、園長先生から「ありがとう！」と声をかけていただいた時には、思わず涙が出そうになりました。横浜市で技術職として働いていて、本当に良かったと感じた瞬間でした！

機械職・電気職は、目立つ仕事ではありません。しかし、陰で市民の方の安心・安全を支えることが出来る、やりがいのある仕事です！



Information session

横浜市の機械職・電気職に少しでも興味があれば、ぜひ「個別相談会」へお申込み下さい！

